

2023年度入試

入学試験問題集

【応用心理学部 臨床心理学科】



東京成徳大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
帰国生入試 小論文	
外国人留学生入試 小論文	
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	4
社会人入試	5
一般選抜D日程入試 総合型問題（学部学科別）	6
出題意図・解答例	7

「一般選抜A日程・B日程・C日程」の問題は、
「2023年度入試問題集 一般選抜A日程・
B日程・C日程」に掲載しています。

● 総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、後の設問に解答してください。

最近自分が失敗した時のことを思い返してみしてほしい。上司に提出するメモの出来が悪かったかもしれないし、友だちに失言したかもしれない。

ミスをした後、あなたは心の中で「よし。どうすればこれから良くできるか考えよう」と思っただろうか。それとも「あーあ、自分はいつもここがだめなんだ」と思っただろうか。

心理学者のキャロル・ドゥエックはこうした反応の違いを何十年にもわたって研究してきた。その一連の研究で、ドゥエックは人にはひそかな決定論者、いうなれば「生まれ派」の人々がいることを示した。このタイプの人には、遺伝子などの生まれが成功の決定要因だと考える。この考え方では頭の良し悪し、強さ弱さ、善悪は生まれながらに決まっているため、失敗すれば「あーあ、自分はいつもここがだめなんだ」と思う。

それに対して、いわば「育ち派」の人々もいるとドゥエックは述べている。このタイプの人にとっては、サーフィンでも数学でも、どんなスキルも伸ばしていける。このタイプの人々が楽天才なのは間違いない。だがそれ以上に、彼らは人は成長して変われるという世界観の持ち主なのだ。要するに、「育ち派」は進歩を信じており、彼らは失敗すると「よし。どうすればこれから良くできるか考えよう」と考える。

ミシェルとドゥエックの研究は世に出て久しいが、この二つの物の見方が学習、特に知力を鍛える学習へのアプローチに大きく影響することを示す研究が現れたのは最近になってからだ。

例えば「育ち派」の人々のほうが頭を働かせる「活動」に取り組む傾向がはるかに強く、自問もよくすることが研究でわかっている。「育ち派」に属する親についても同様だ。彼らは我が子の勉強を見てやる時間が長い。「育ち派」の人々は努力の価値を信じる傾向が強いのだと言えるかもしれない。

出典：アーリック・ボーザー（著）月谷真紀（訳）（2018）

Learn Better ―頭の使い方が変わり、学びが深まる6つのステップ― 英治出版

問1 「生まれ派」「育ち派」の考え方について、それぞれメリット・デメリットがあるとしたらどのような点でしょうか。

問2 「生まれ派」「育ち派」の考え方を自分自身に活かすとしたら、どのような点を活かしたいと考えますか。

解答は問1と問2を合わせて800字以内とします。解答の際は用紙上で、問1・問2に対する解答であることが分かるように、(1)や【2】など表記を工夫してください。

なお、この問題は専門的知識の有無を尋ねるものではありません。

● 総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

【問題】

下の表は、平成 23 年度以降の児童相談所での、虐待相談における経路別件数の推移を示したものです。

- ①児童虐待の相談経路として、この 10 年間でどのような経路が最も増えたのか、その根拠とともに、説明してください。
 また、②児童虐待の相談経路の推移を見て、あなたが考える家族や社会の変化について、その根拠とともに、説明してください。

解答の際は用紙上で、各問に対する解答であることが分かるように、解答前に①や〔2〕を付けるなど表記を工夫してください。

出典：厚生労働省サイト内「令和 3 年度全国児童福祉主管課長・児童相談所長会議資料」

児童相談所での虐待相談の経路別件数の推移

	家族 親戚	近隣 知人	児童 本人	都道府県										警察等	児童委員	学校等			その他	総数
				指定都市・中核市			市町村		児童福祉施設		保健所・医療機関		学校等							
				児童相談所	福祉事務所	保健センター	福祉事務所	保健センター	保育所	児童福祉施設	保健所	医療機関	幼稚園			学校	教育委員会			
23年度	8949 (14.9%)	12813 (21.4%)	741 (1.2%)	3621 (6.0%)	1282 (2.1%)	340 (0.6%)	5160 (8.6%)	366 (0.6%)	882 (1.5%)	634 (1.1%)	202 (0.3%)	2310 (3.9%)	11142 (18.6%)	220 (0.4%)	213 (0.4%)	5536 (9.2%)	313 (0.5%)	5195 (8.7%)	59919 (100.0%)	
24年度	8664	13739	773	4165	1220	424	5339	375	909	689	221	2653	16003	233	211	5730	303	5050	66701	
25年度	8947	13866	816	4835	1195	375	5423	292	881	799	179	2525	21223	225	213	6006	279	5723	73802	
26年度	9802	15636	849	5806	1448	482	5625	353	906	808	155	2965	29172	225	259	6719	278	7443	88931	
27年度	10936	17145	930	6372	1428	429	5708	339	1047	678	192	3078	38524	179	288	7546	349	7848	103286	
28年度	11535	17428	1108	6747	1499	428	6174	306	947	825	203	3109	54812	157	248	8264	338	8447	122575	
29年度	11835	16982	1118	6328	1332	457	6294	273	1047	999	168	3199	66055	131	333	8605	343	8279	133778	
30年度	13492	21449	1414	7460	1345	428	6986	348	1397	1042	216	3542	79138	168	406	10649	394	9964	159838	
令和元年	15799	25285	1663	9313	1552	467	8890	396	1616	1255	232	3675	96473	148	525	13856	447	12188	193780	
令和2年	16763 (8.2%)	27641 (13.5%)	2115 (1.0%)	9945 (4.9%)	1463 (0.7%)	705 (0.3%)	8264 (4.0%)	405 (0.2%)	1607 (0.8%)	1346 (0.7%)	233 (0.1%)	3427 (1.7%)	103619 (50.5%)	150 (0.1%)	479 (0.2%)	13643 (6.7%)	553 (0.3%)	12671 (6.2%)	205029 (100.0%)	

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000019801_00004.html

●総合型選抜 12月入試

●帰国生入試

●外国人留学生入試

【小論文】（試験時間：60分）

【問題】 次の文章を読んで、設問（１）、（２）に対して合計800字以内で解答してください。

なお、それぞれの冒頭に（１）、（２）と明記し、両者の間に改行を挟むこと。

小学生の頃から自分の目に映る世界は他の人と同じなのだろうかと思い、自分がこの世界に確かに存在しているという自信もなく、なんだか自分は誰かの夢の中の登場人物ではないかという心もとない気分で生きてきた私は、自分と世界を繋ぎとめる手段として「他者との関係」や「言葉によるコミュニケーション」を選んだわけだが、もしかするとそれは間違いだったのかもしれない。他の人たちはどうやって世界と繋がっているのだろうか？繋がっていることに疑問を持たない、という形で？まあ、確かに疑問を持たなければ不安にもならないし、わざわざ確かめる必要もない。きわめて合理的な生き方だと言える。

だが、私はそのような人々を羨ましいとは思わないし、彼らのようにになりたいとも思わない。疑問を持たなくなったら、私は私ではなくなるからだ。疑問を持ったからこそ、私は世界を解読したいという野望を持った。世界が謎めいていたからこそ、それを探求するのが楽しかった。他人や世界に解釈を加えず、目に見えたものをそのまま世界の在りようだと信じる人間だったら、人生はもっと退屈だったに違いない。

無駄だらけの人生だったが、それなりに私には意味のある人生だった。私の思考や言葉が誰にも何も伝えず、跡形もなく消え去るものであったとしても、少なくとも私にとっては意味があったのだ。そして、本人にとって意味のある人生だったなら、それで充分なのではないか？

私のこのような考え方は、他人の目にはひどく愚かに映るのだろう。だけど私は愚者でいい。どうせ賢くなんてなれないし、愚者には賢者に見えない世界が見えるからだ。私はその「愚者の目に映った世界」を言葉にして説明してきた。私には世界がこんな風に見えますよ、と伝えたかったのだ。賢者の目には世界はどれも似たように見えるのかもしれないが、愚者の目に見える世界は色彩に満ちている。愚かさゆえに犯す数々の失敗も、私の人生に彩りを与えた。愚者は退屈を知らない。退屈する暇もないほど自分の尻拭いで忙しいからだ。私はついに賢者にはなれなかったが、愚者としては生き生きとした人生を歩んだと思う。だから明日死んでも満足だ。

出典：中村うさぎ（2016）「あとは死ぬだけ」太田出版

- （１）文中にある「愚者の目に映った世界」とはどのような世界なのか、「賢者」と対比させながらあなたの考えをまとめてください。
- （２）筆者は、「自分と世界を繋ぎとめる手段」として「他者との関係」や「言葉によるコミュニケーション」を選んでいますが、これらはいずれも基本的に他者の存在を前提とするものです。一方で、自分がかけがえのない存在であることを自分自身で認めることも、自分と世界を繋ぎとめる手段の一つになり得ると考えられます。あなたが自分自身に対して感じている、あなたらしさとは何ですか。経験を踏まえてまとめてください。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、後の設問に解答してください。

著作権使用許可が下りなかったため、問題文および設問を掲載していません。

なお、問題文と設問は「センスメイキング 本当に重要なものを見極める力（クリスチャン・マスビアウ【著】／斎藤栄一郎【訳】）」の一部を引用して出題しています。

（問題文：約 600 字）

●社会人入試

【小論文】（試験時間：60分）

問題 次の文章を読んで、設問（１）、（２）に対して合計800字以内で解答してください。

なお、それぞれの冒頭に（１）、（２）と明記し、両者の間に改行を挟むこと。

小学生の頃から自分の目に映る世界は他の人と同じなのだろうかと思い、自分がこの世界に確かに存在しているという自信もなく、なんだか自分は誰かの夢の中の登場人物ではないかという心もとない気分で生きてきた私は、自分と世界を繋ぎとめる手段として「他者との関係」や「言葉によるコミュニケーション」を選んだわけだが、もしかするとそれは間違いだったのかもしれない。他の人たちはどうやって世界と繋がっているのだろうか？繋がっていることに疑問を持たない、という形で？まあ、確かに疑問を持たなければ不安にもならないし、わざわざ確かめる必要もない。きわめて合理的な生き方だと言える。

だが、私はそのような人々を羨ましいとは思わないし、彼らのようになりたいたいと思わない。疑問を持たなくなったら、私は私ではなくなるからだ。疑問を持ったからこそ、私は世界を解読したいという野望を持った。世界が謎めいていたからこそ、それを探求するのが楽しかった。他人や世界に解釈を加えず、目に見えたものをそのまま世界の在りようだと信じる人間だったら、人生はもっと退屈だったに違いない。

無駄だらけの人生だったが、それなりに私には意味のある人生だった。私の思考や言葉が誰にも何も伝えず、跡形もなく消え去るものであったとしても、少なくとも私にとっては意味があったのだ。そして、本人にとって意味のある人生だったなら、それで充分なのではないか？

私のこのような考え方は、他人の目にはひどく愚かに映るのだろう。だけど私は愚者でいい。どうせ賢くなつてなれないし、愚者には賢者に見えない世界が見えるからだ。私はその「愚者の目に映った世界」を言葉にして説明してきた。私には世界がこんな風に見えますよ、と伝えたかったのだ。賢者の目には世界はどれも似たように見えるのかもしれないが、愚者の目に見える世界は色彩に満ちている。愚かさゆえに犯す数々の失敗も、私の人生に彩りを与えた。愚者は退屈を知らない。退屈する暇もないほど自分の尻拭いで忙しいからだ。私はついに賢者にはなれなかったが、愚者としては生き生きとした人生を歩んだと思う。だから明日死んでも満足だ。

出典：中村うさぎ（2016）「あとは死ぬだけ」太田出版

（１）文中にある「愚者の目に映った世界」とはどのような世界なのか、「賢者」と対比させながらあなたの考えをまとめなさい。

（２）あなたにとっての「自分と世界を繋ぎとめる手段」とはどのようなものか、あなたの経験をふまえて述べなさい。

●一般選抜 D日程入試

【総合型問題】（試験時間：60分）

【問】次の文章は、自分が何か問題を抱えている時に、どんな人に相談すればよいのか、その相談相手について書かれたものです。文章を読んで下記の問1～問4に解答してください。

問題を解決するために自力で視界が開けないときは、誰かの力を借りればよいと私は思います。自分の問題を言語化できる相手、心の内側をストレートに話せる相手を、ふだんから確保しておくことは心の健康を保つためにも必要です。

ただし、友人や家族など、(2)身近すぎる人間は(① てきにん)ではありません。

「そうだよね。大変だよ」という共感だけで、話が堂々巡りで終わってしまう可能性があります。また、近しい関係の人間は利害関係がからむので、フラットな視点で話を聞いてくれるとは限りません。

気心は許せるけれど、日常的に会うわけではない。なんとなくウマが合って適度な距離感があり、信頼できる関係。

私はそれを(1)「淡い関係」の人と呼んでいます。

ひんぱんに会う関係ではなくても、親身になって聞いてくれる人、相手の立場を尊重して受け止めてくれる人。自分の意見を押しつけない人を選ぶことが大事です。

学生時代に信頼できた教師や部活のコーチ、昔からお互いにシンパシーを感じている親戚、前の職場にいた信頼できる上司や先輩など、できれば年上の方がいいでしょう。見渡してみると、きっと思い当たる人がいるはずですよ。

年齢を重ねて、仕事上の責任が大きくなったり家庭を持ったりすると、大きな悩みを抱えることがあります。淡い関係の人は、自分が元気なときに探しておくほうがいいでしょう。

しかし普通の人間であれば、他人のつらい話や暗い話はうっとうしいと感じるものです。それも問題が起きてから突然連絡をとると、当然ながら警戒されます。

年賀状や、たまの近況報告メールなどで、相手に忘れられないようにしておくこと。できれば、小さなことを時々相談しておくのがベストかもしれません。

心の内側を話すには、お互いに信頼し合っていることが前提です。淡い関係は、長い年月の積み重ねがないと生まれません。

優れた聞き手は、ただ黙っているだけではありません。相手の思考を刺激する言葉を持っています。その人に話すことによって、(3) 自分の姿を照らし出せる鏡のような相手が、よい聞き手です。

私も人の話を聞くときは、相手が自分の状況を把握し、問題を浮き彫りにできるような質問をすることを意識しています。

ただし、信頼できる相談相手ではあっても、しよせん他人だと思っておくことです。(② かじょう)な期待をせず、話ができよかつたなと思う程度の気持ちで会うほうがお互いに負担がありません。

話をしている、自分に何が起きているのかがもし見えてきたら、問題の答えを見出すための第一の成果が出たと思えばいいのです。

そして方が一、対話の中で答えが出たら、それはしめたものです。しかしその答えも、自分で試してみなければわからないということは、覚えておいてください。

出典：南直哉（著）『『前向きに生きる』ごとに疲れたら読訂本』（株）アスコム2022年

（漢字問題の部分のみ出題者が改変した）

問1 文中の(① てきにん)および(② かじょう)の部分の漢字で記述してください。

問2 下線部(1)の「淡い関係」とは、どのような関係ですか。

問3 下線部(2)の「身近すぎる人間」が、自分の問題を言語化できる相手として適さない理由を述べてください。

問4 下線部(3)に「自分の姿を照らし出せる鏡のような相手が、よい聞き手」と作者は述べていますが、よい聞き手になるにはどのような聴き方をすればよいのか、本文を参考にしてあなたの考えを述べてください。

以上の4つの問いについての解答を、解答用紙に収まるように合計800字以内でまとめてください。

また、解答の際、問3以降は解答を開始する場所に「問3」、「問4」を明記してください。

それぞれの解答・記述開始時には改行を入れること。

● 出題意図・解答例

総合型選抜 9月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。日常的な課題に対する興味関心や、設問内容を正しく理解して論理的に思考する能力、それらを分かりやすく論述する能力などをみる。

【問1】

多角的な視点から課題を理解する能力、自分の考えを論理的に表現する能力をみる。

【問2】

対立する考え方から、「自分自身に活かす」という視点へ思考を展開させる能力、具体的かつ説得力をもって表現する論述力などをみる。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。日常的な課題に対する興味関心や、設問内容を正しく理解して論理的に思考する能力、それらを分かりやすく論述する能力などをみる。

【問①】

児童虐待の相談経路の資料を読み取り、警察等の通報が18.6%から50.5%と増えているデータを根拠に説明できる。家族・親戚、近隣・知人も減っていることを説明できると良い。以上のことから、客観的なデータを読み取る力、それを根拠に論理的に説明し、表現できる論述力をみる。

【問②】

まず、1) 児童虐待の通報が増加していること、2) 警察等の相談経路が増えていること、3) 家族・親戚、近隣・知人が減っていること、など、家庭、学校、地域社会では気づきにくいことで子どもと大人との関係が希薄化していること、また、警察による保護の多さから家出をきっかけに発見されるなど、家庭での居場所のなさが原因であると、単純にデータから読み取り、思考を展開させる能力だけではなく、具体的かつ説得力をもって表現する論述力などをみる。

総合型選抜 12月入試

帰国生入試

外国人留学生入試【出題意図・解答例】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また、同じく「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。

- (1) の出題意図は、文章や文脈を正しく理解し、論理的に思考する力を見るものであり、これらの力は大学で授業を受けて理解できる基礎学力に通じる。
- (2) の出題意図は、文章や文脈を正しく理解し、それを自身の経験に照らして適切に表現する力を見るものである。心理学を学ぶ際には、自分自身が被験者となる機会も多い。そのため自分自身について客観的に振り返り、それを適切に言語化する能力が不可欠である。

評価は以下の基準に基づく。

- ・「愚者」と「賢者」の違いを文脈から把握し、論理的に考察・記述できているか。
- ・「自分と世界を繋ぎとめる手段」について文脈から理解し、自分自身の経験と適切に結び付け、考察・記述できているか。
- ・日本語の文章や小論文として適切なものになっているか（誤字脱字等の有無も含む）。

《解答例》

- (1) 筆者による賢者とは、目に見えたものをそのまま世界の在りようだと信じ、世界や自分自身の存在について疑問を持たない人間のことである。これに対し、愚者とは自分自身や世界に対して疑問を持ち、所謂当たり前や常識に囚われることなく世界を見る。そのため、愚者の目に見える世界は色彩に満ちており、賢者が気付かないような世界の多様性を捉えることができる。
- (2) 「自分と世界を繋ぎとめる手段」とは、自分がこの世界に確かに存在しているという事実を確かめるための行動や考え方を指している。ここでは、自分の過去を客観的に振り返りつつ、自己を肯定的に受け入れようとする姿勢が記述されることが望ましい。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。日常的な課題に対する興味関心や、設問内容を正しく理解して論理的に思考する能力、それらを分かりやすく論述する能力などをみる。

本試験では、特に比較的難解な文章を読解する力と自分の主張について論理的に説明する力に注目する。読解ができ、賛成の立場であるなら、AI時代のアルゴリズムなどによる意思決定を尊重する見解を、自分の例を挙げて、論理的に主張できることが望ましい。逆に、反対の立場なら、アルゴリズムなどによる意思決定ではなく、「人」が媒介することの利点を、同じく、自分の体験例を挙げて、論理的に主張できることが望ましい。

社会人入試【出題意図・解答例】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また、同じく「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。

(1) の出題意図は、文章や文脈を正しく理解し、論理的に思考する力を見るものであり、これらの力は大学で授業を受けて理解できる基礎学力に通じる。

(2) の出題意図は、文章や文脈を正しく理解し、それを自身の経験に照らして適切に表現する力を見るものである。心理学を学ぶ際には、自分自身が被験者となる機会も多い。そのため自分自身について客観的に振り返り、それを適切に言語化する能力が不可欠である。

評価は以下の基準に基づく。

- ・「愚者」と「賢者」の違いを文脈から把握し、論理的に考察・記述できているか。
- ・「自分と世界を繋ぎとめる手段」について文脈から理解し、自分自身の経験と適切に結び付け、考察・記述できているか。
- ・日本語の文章や小論文として適切なものになっているか（誤字脱字等の有無も含む）。

《解答例》

(1) 筆者による賢者とは、目に見えたものをそのまま世界の在りようだと信じ、世界や自分自身の存在について疑問を持たない人間のことである。これに対し、愚者とは自分自身や世界に対して疑問を持ち、所謂当たり前や常識に囚われることなく世界を見る。そのため、愚者の目に見える世界は色彩に満ちており、賢者が気付かないような世界の多様性を捉えることができる。

(2) 「自分と世界を繋ぎとめる手段」とは、自分がこの世界に確かに存在しているという事実を確かめるための行動や考え方を指しているため、これに該当する自身の経験を記述する。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「2. 心の支援やケアにかかわる諸資格取得に意欲のある人」「3. 将来、心のケア、支援にかかわる仕事（スクールカウンセラー、医療・福祉領域における心理職など）や職場などの対人関係にかかわる仕事をを目指す人」に関する問題である。

問2以降の出題意図は、文章を理解する力、またそれを表現する力を問う問題である。これらの問題は、入学後に大学で授業を受けて理解する基礎学力の査定になる。問4の出題意図は、「よい聞き手」とはどのような聞き手なのか、本文を参考にしながら、自分なりの考えをまとめて、それを適切に表現する力を問う問題である。

評価は次の基準に基づく。

- ・問1 日常的に用いられる基本的な漢字を適切に記載できるか。
問1 ①適任
②過剰
- ・問2 「友人や家族などの身近すぎる関係ではなく、気心は許せるけれど、日常的に会うわけではない、なんとなくウマが合っ
て適切な距離感があり、信頼できる関係、つまり「淡い関係」であり、お互いに信頼し合っている関係が前提となる」
- ・問3 「身近過ぎる関係では、共感だけで話が堂々巡りで終わる可能性があり、利害関係がからむので、フラットな視点で話を聞いてくれないため適さない」
- ・問4 本文中の「親身になって聞いてくれる、相手の立場を尊重して受け止めてくれる、自分の意見を押しつけない」「ただ黙
っているわけではなく、相手の思考を刺激する言葉を持っている」「相手が自分の状況を把握し、問題を浮き彫りにでき
るような質問をする」といった聞き手の特徴をベースにして、よい聞き手について自分の考えを述べている。
- ・上記のほか、誤字脱字がないこと、論旨が明確で論理的に展開されていることも評価の基準である。